

かがやき 新聞 五月号

京北の桜、満開

4月は桜の時期。今年は東京都内の開花が早かったようですが、京北では例年通りが4月中旬に開花を迎えました。写真の桜は4月13日に撮影しましたが、この時はまだ満開ではなく8分咲き程度でしたが、それでもこの綺麗さでした。以前に、片山前所長が京北の桜は京都市街地と比べてのびのびと育っているので、桜本来の美しさを表現出来ている、と言っていたのを思い出しました。4月上旬は京都市内、中旬になったら、ぜひ、京北で観桜してください。

京北には旧家も多く残っており、桜と日本家屋が並んでいる様は、今では見るのが難しくなりましたが、日本のふるさとの風情を想起させてくれます。こういった地域資源は一朝一夕に出来るものではなく、地域の方々が手を施してきた事により維持がされています。京北には桜の木が多く植えられており、人々の目を愉しませてくれますが、この桜の木を植える、という行為も植えた本人が楽しめるのは数十年以上先であり、即物的な物ではありません。それでもたくさんの方が植えられているということは、京北の人々が自分の後世に受け継ぐ為にしてきた事だと言えます。元来、杉の木を営林し、森と共に生きてきた人々だからこそ、長いスパンで考えて残してくれた物が、いま、咲いていると思います。

古くから禁裏御料地として御所造営に深く関わり、支え、林業で栄えた地域ですが、今では過疎、高齢化といった問題に直面しています。今では世界に名だたる観光都市 京都から少しばかり離れた所に位置していますが、まだその価値を発揮できています。そんな京北ですが、先人が遺した地域の遺産は、重要な観光資源になり得ます。

京都市の観光PRのポスターに「日本に、京都があつてよかった。」というキャッチコピーがありますが、その言葉の後ろに「京都に、京北があつてよかった。」という言葉が続いても良いのでは、と思います。その言葉に恥じない歴史文化、景観は、これからの京北地域を振興させる為の重要なツールになります。最近になって、メディア関係のお問合せが増えてきており、ちよつどの「桜の時期にもNHKドラマの撮影が魚ヶ淵の桜のたもとで撮影が行われました。こういった事がきっかけとなり人目に触れることで地域振興、活性化に繋がっていけばと思います。」

京都市役所 文化市民局 地域自治推進室

京都市北部山間かがやき隊 京北担当

菅本 千尋

お問い合わせ(右京区役所 京北出張所)

電話(075)852-1811

E-mail suqdc132@city.kyoto.lg.jp

番外編

三重県民の集いに参加しました

4月16日にグランヴィア京都にて、京都三重県人会10周年記念パーティに呼んで頂いたので参加しました。当日は三重県知事や京都市長、参議院議員の方の来賓があり、芸子さんや舞妓さんの舞台もあり、華やかに行われました。京都へ来てから京都らしい事に触れていなかったのが初めて舞を観る事ができ嬉しかったです。忍者演武では故郷の伊賀地域から来ていました。伊賀は「忍者」という世界中が大好きなコンテンツがありますが、今一つ観光地化に結びついておらず、また、地元民もそれほど気に留めていないといった所です。そういった点は、どこか京北にも似た所を感じます。会の最後には「ふるさと」を歌い、志を果たしていつの日にか帰らん、という歌詞に気の引き締まる思いがしました。いつか三重と繋がるような事が出来ればと思います。

